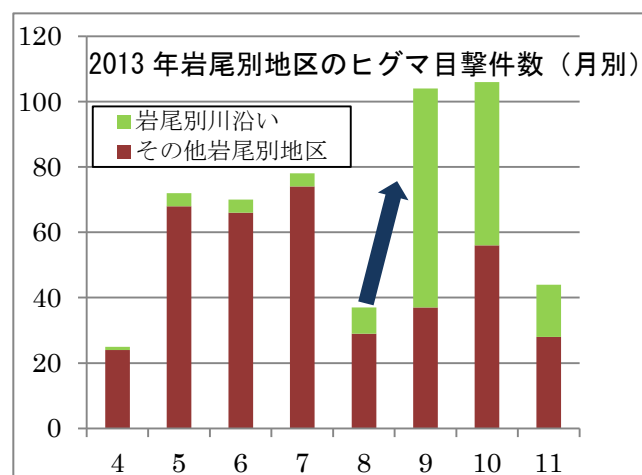
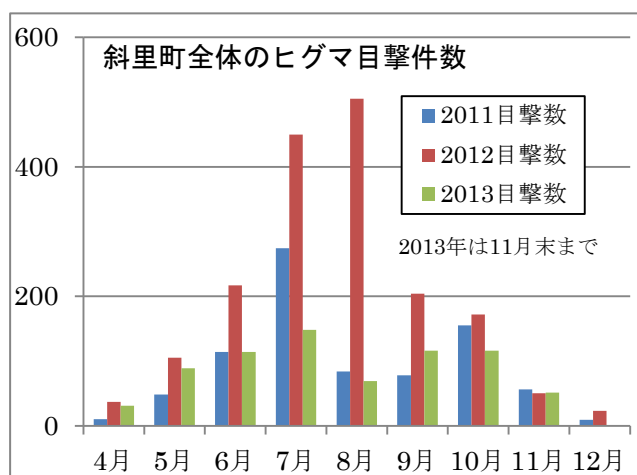


岩尾別川におけるヒグマ対応について

1. 岩尾別川における状況について

- ・2013年11月末までの斜里町ヒグマ目撃件数は734件。大量出没があった昨年から半減（42%）したが、2011年比では90%であった。
- ・8月後半から特定の3個体による目撃が急増。9月～11月の総目撃283件中、199件（70%）が、該当3個体と識別されている。地区別では岩尾別地区の目撃が254件で、特に川沿いでの目撃が集中的に発生した。
- ・頻繁に川沿いに現れる該当個体の撮影を目的としたカメラマンが岩尾別川沿いに滞留する状態となり、交通渋滞（一般観光客の誘因を含む）、ヒグマへの異常接近などの不適切行為が見られ、ヒグマ事故の危険性も増大した。



（知床財団提供）

2. その後の対応について

- ・2013年10月18日付で、知床世界自然遺産地域科学委員会名での声明「岩尾別川のカメラマンによるヒグマの「人なれ」の危険性について」が発表された（科学委員会事務局）。
- ・10月18・19日に、関係機関が連携して、カメラマンや観光客を対象として注意喚起の啓発活動（ビラ配布）を実施した。
- ・その後、複数回にわたって、関係機関が意見交換・課題整理を行い、観光客等の安全管理、ヒグマへの影響、現行の法・制度等との関係、現場での円滑な指導等の観点から、平成26年度シーズンに向けた効果的な対策を検討している。